

じんせい  
人生

もし<sup>ゆうえい</sup>遊泳を学ばないものに<sup>およ</sup>泳げと<sup>めい</sup>命ずる  
ものがあれば、なんびとも<sup>むり</sup>無理だと思う  
であろう。

もしまたランニングを学ばないものに<sup>か</sup>駈  
けろと<sup>めい</sup>命ずるものがあれば、やはり  
<sup>りふじん</sup>理不尽だと思わざるを得まい、しかし  
<sup>われわれ</sup>我々は生まれた時から、こういう莫迦げ  
た<sup>めいれい</sup>命令を<sup>お</sup>負わされているのも同じこと  
である。

我々は母の<sup>たいない</sup>胎内にいた時、人生に<sup>しよ</sup>処する  
道を学んだであろうか。

しかも<sup>たいない</sup>胎内を<sup>はな</sup>離れるが早いか、とにかく  
大きい<sup>きょうぎじょう</sup>競技場に<sup>に</sup>似た人生の中に<sup>ふ</sup>踏み入る  
のである。

勿論<sup>ゆうえい</sup>遊泳を学ばないものは満足<sup>まんぞく</sup>に泳げる  
理窟<sup>りくつ</sup>はない。

同様にランニングを学ばないものは大抵<sup>たいてい</sup>  
人後<sup>じんご</sup>に落ちそうである。

すると我々<sup>われわれ</sup>も創痕<sup>そうい</sup>を負わずに人生の  
競技場<sup>きょうぎじょう</sup>を出られるはずはない。

なるほど世人<sup>せじん</sup>言うかもしれない。

「前人<sup>ぜんじん</sup>の跡<sup>あと</sup>を見るがよい。あそこに君たち<sup>きみ</sup>  
の手本<sup>てほん</sup>がある」と。

しかし百の遊泳者<sup>ゆうえいしゃ</sup>や千のランナア<sup>なが</sup>を眺め  
たにしろ、たちまち遊泳<sup>ゆうえい</sup>を覚え<sup>おぼえ</sup>たり、ラ  
ンニングに通じたりするものではない。

のみならずその<sup>ゆうえいしゃ</sup>遊泳者はことごとく水を  
飲んであり、そのまたランナアは<sup>ひとりのこ</sup>一人残  
らず<sup>きょうぎじょう</sup>競技場の<sup>つち</sup>土にまみれている。

見たまえ、世界の<sup>めいせんしゅ</sup>名選手さえ<sup>たいてい</sup>大抵は<sup>とくい</sup>得意  
の<sup>びしょう</sup>微笑の<sup>じゅうめん</sup>かげに<sup>かく</sup>渋面を隠しているではな  
いか。

人生は<sup>きょうじん</sup>狂人の<sup>しゅさい</sup>主催に<sup>な</sup>成ったオリムピック  
<sup>たいかい</sup>大会に<sup>に</sup>似たものである。

我々は人生と<sup>たたか</sup>闘いながら、人生と<sup>たたか</sup>闘うこ  
とを学ばねばならぬ。

こういうゲエムの<sup>ば か ば か</sup>莫迦莫迦しさに<sup>ふんがい</sup>憤慨を  
<sup>きん</sup>禁じ得ないものはさっさと<sup>らちがい</sup>埒外に<sup>あゆ</sup>歩み去  
るがよい。

<sup>じ さつ</sup>自殺もまた<sup>いちべんぼう</sup>確かに一便法である。

しかし人生の競技場<sup>きょうぎじょう</sup>に踏み止<sup>ふ</sup>まりたいと  
思うものは創<sup>そう</sup>傷<sup>い</sup>を恐れ<sup>おそ</sup>ずに闘<sup>たたか</sup>わなければ  
ならぬ。

人生は一箱<sup>ひとはこ</sup>のマッ<sup>に</sup>チに似ている。

重大<sup>じゅうだい</sup>に扱<sup>あつか</sup>う莫<sup>ば</sup>迦<sup>か</sup>莫<sup>ば</sup>迦<sup>か</sup>しい。

重大<sup>じゅうだい</sup>に扱<sup>あつか</sup>わなければ危<sup>き</sup>険<sup>けん</sup>である。

人生は落<sup>らく</sup>丁<sup>ちょう</sup>の多<sup>に</sup>い書物に似ている。

一部<sup>いちぶ</sup>を成<sup>な</sup>すとは称<sup>しょう</sup>しがたい。しかしとに  
かく一部<sup>いちぶ</sup>を成<sup>な</sup>している。